

の先の林道の橋までは平凡である。

橋をくぐり、沢が中州状に分かれた先から核心部となる。F₃からF₆まで次々と滝がかかる。

二俣を右に入ると、一時伏流となるが、F₇ 10m トイ状滝で再び水量を取り戻した。

ヤブ沢をしばらく進む。やがて沢に水がなくなり、ヤブこぎに入る。上へ上へと50分程ヤブをこぐ。男鹿岳で昼食をとり、オガ沢への下降点めざしてヤブこぎで尾根を下る。

(記・

[タイム] オノゴヤ沢出合(7:00)→遡行終了(9:00)→男鹿岳(10:00)

オガ沢 1986年7月26日

間違っって下りそうになったが、様子が違うので、現在地を確認してトラバースぎみにオガ沢へと下降する。急な斜面を下り、沢へ。カレ沢を下ってゆくと、細い流れとなり、小滝が出てくる。二俣までそんな流れである。春男君は右ひざを痛めていて、今日は動きが鈍い。

ナメが現われると二俣となる。ナメはこのあたりから下の砂防まで断続的に続く。やがて林道の橋。ここでいったん水が溜れたが、その下の砂防のところから再び水流を取り戻した。砂防3つを越えた先で沢から上がり、下降終了とする。

(記・

[タイム] 下降点(11:30)→オガ沢(12:00)→下降終了(14:10)

